

[4] 串間市小体連（学校数 9 校 児童数 7 9 3 人）

I 年間事業

期 日	事業名	主な内容	会 場
4 月 3 0 日（火）	第 1 回理事会	前年度事業、会計報告・役員選出・事業計画・予算案の審議	福島小学校
5 月 8 日（月）	第 1 回南那珂地区教科等研究会		ハートフルセンター
6 月 4 日（火）	第 2 回理事会	研究推進・運動会について・水泳記録会に変わる取組について	福島小学校
8 月 3 0 日（金）	第 3 回理事会	研究推進・陸上記録会について	福島小学校
1 0 月 1 8 日（木）	第 4 回理事会	陸上記録会の確認	福島小学校
1 1 月 1 1 日（月）	第 5 回理事会	陸上記録会選手名簿確認・前日準備	福島小学校・市総合運動公園
1 1 月 1 2 日（火）	第 5 9 回串間市小学校陸上記録会		市総合運動公園
1 2 月 1 2 日（木）	第 6 回理事会	陸上記録会の反省・研究のまとめ	福島小学校
2 月 1 8 日（火）	第 7 回理事会	事業反省・研究のまとめ・次年度事業計画	福島小学校

II 事業部のあゆみ

1 陸上記録会

- (1) 大会名 令和 6 年度 串間市小学校陸上記録会
- (2) 実施日 令和 6 年 1 1 月 1 2 日（火）
- (3) 会場 串間市総合運動公園内陸上競技場
- (4) 出場者 串間市内各小学校 6 年生児童 ※小規模校は 5 年生も参加
- (5) 実施種目
 - トラック競技
 - ・ 1 0 0 m ・ 8 0 0 m（女子） ・ 1 0 0 0 m（男子） ・ 5 0 mハードル ・ 4 0 0 mリレー
 - フィールド競技
 - ・ 走り高跳び ・ 走り幅跳び ・ ソフトボール投げ
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする。
 - 出場は、1 0 0 mについては全児童が出場し、リレーを除き、トラック・フィールドを合わせた全ての競技の中で、もう 1 種目を選択する形とする。
 - その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程

開会式	8 : 4 5	競技開始	9 : 0 0	
	競技終了 1 1 : 4 5	閉会式	1 1 : 5 0	
- (8) 表彰
 - 上位 6 名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。
- (9) 反省
 - 昨年より実施時期を 11 月としていたが、当日が暑くなり、熱中症の疑いのある児童が数名見られた。
 - 児童の出場機会を増やすため、1 0 0 m走を全員参加とした。それにより競技時間の延長という課題も見られた。
 - 記録をスムーズに行うことができるように、本部記録担当は自校からタブレット、PC を持参する。会長は、その旨を担当校へ連絡する。
 - 当日参加される理事以外の役員の先生方との事前の打ち合わせが必要ではないかと感
→ 次年度は前日準備後に役員の先生方に集まっておき、当日の打ち合わせをする時間を設ける。
 - 役員の競技への理解を深めるために、走り幅跳びなど競技の細かな部分(助走距離や高跳びのバーの弛み、計測方法)を陸協から講習を受けて、各学校の役員へ伝達できるようにしたい。
 - 児童の減少、役員不足などの観点から今後記録会をどのように実施していくのかの検討が必要である。

Ⅲ 研究部のあゆみ

Ⅰ 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成
～基礎的運動能力や主運動につながる動きの向上を目指して～

2 主題設定の理由

昨年度まで、串間市小体連は、串間市・日南地区で開催された県学体研に向けて尽力してきた。学体研では、3カ年計画で研究してきた主体的・対話的で深い学びのある体育科授業の在り方や技能の向上を目指すための手立てや工夫を発表することができた。学体研を行ったことにより研究に一区切りがついたと考え、本年度から新しい研究を始めていくことにした。

新しい研究を始めるにあたり、串間市各校の新体力テストの結果を見直したところ、各校それぞれのウィークポイントが見つかった。また、体育主任が年度ごとに変わっていく関係上、スクールスポーツプランや串間市小体連で作成したパワーアップタイム遊び集を効果的に使用できていない現状があった。

そこで、これまでの研究も踏まえ、本年度は、スクールスポーツプランやパワーアップタイム遊び集を活用しながら、基礎的運動能力や主運動につながる動きの向上を目指すために、本主題・副題を設定した。

3 研究の目標

基礎的運動能力や主運動につながる動きの向上を目指すことにより、運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成を図る。

4 研究の仮説

体育科授業や日常生活において、スクールスポーツプランやパワーアップタイム遊び集を活用しながら、基礎的運動能力や主運動につながる動きの向上を目指せば、運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童を育成することができるであろう。

5 研究の内容

(Ⅰ) 基本的な考え方

① 基礎的運動能力とは

筋力、運動に合わせて身体の動きを調整するための調整力、行動を起こすための瞬発力、行動を継続するための持久力など、運動をするための基礎となる身体的能力

② 主運動につながる動きとは

サッカーやバスケットボールにおけるパスやドリブル、バレーボールにおけるオーバーハンドパスやアンダーハンドパスなど、主運動に取り組む上で欠かせない動き

(2) 各校の新体力テストの結果の分析

(3) スクールスポーツプランの見直し

(4) パワーアップタイム遊び集の活用

6 研究の実際

(Ⅰ) 各校の新体力テストの結果分析

各校で取り組む内容を絞りやすくするため、前年度の新体力テストの結果を分析した。Tスコアが平均以下の学年が多い項目をピックアップし、その項目を強化するための運動遊びを各校においてパワーアップタイム遊び集から選ぶようにした。

(2) スクールスポーツプランの見直し

各校で作成したスクールスポーツプランを比較し、各校の特色を把握したり串間市全校で取り組むことができる内容を模索したりした。

(3) パワーアップタイム遊び集の活用

串間市小体連では、主運動につながる運動遊びをまとめた、パワーアップタイム遊び集を作成している（資料１）。パワーアップタイム遊び集には、各運動遊びを実践すると強化される力も記載されている。

そこで、新体力テストの結果分析をもとに、各校でそれぞれ強化したい力に合わせた運動遊びを実践した。また、実践していく中で、改良できる箇所を見つけたり各校の特色を生かした運動遊びを実践したりした（写真１～５）。



【写真１ 中車輪の練習】



【写真２ ケンケンパ】



【写真３ じゃんけん陣取り】



【写真４ 前転ボール取り】



【写真５ 進化じゃんけん】

パワーアップタイム遊び集 No.4

運動名 「うろうろパス」 人数 …… 2～6名 場所…体育館 準備物…ボール	主運動へのつながり ボール運動 期待される力 調整力・技能
--	--

☆ねらい☆
一つのボールを友達と一緒に
繋ぐ・遊ぶ楽しさを味わう。

○交流
ボールや仲間・敵の動きに対応
した身のこなし方に気付く。

○気付き
味方の位置や動き確認しながら、
パスを繋げ、周辺視野を広げる。

☆やり方☆
1. 2人組で歩きながらお互いの存在を意識し、取り
やすいパスを出す。(慣れてきたら動きを速める)
2. 4～6人場合は、○対○で、パスカットを入れて
対戦する。
3. 中・高学年はシュートを入れても良い。

☆気を付けること・運動のポイント☆
○ 動ける範囲を指定し、その中をうろうろと動きながら相手・味方にパスを出す。
○ 片手パス・両手(チェスト)パス・バウンドパスなど様々なパスを行わせる。
○ 慣れてきたら味方の移動先を予想し、できるだけノールックを意識させる。
○ ボートボール、バスケットボールの周辺視野を意識しさせる運動として取り入れる。

【資料１ パワーアップタイム遊び集】

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ 新体力テストの結果分析、スクールスポーツプランの見直しを行ったことにより、各校において強化したい力や取り組む内容を再確認することができた。
- ・ パワーアップタイム遊び集を活用したことにより、児童が楽しみながら基礎的運動能力の向上を図ることができた。また、全学年で取り組むことができる内容だったので、指導者の手立ての幅が広がった。

(2) 課題

本年度は、基礎的運動能力の向上に重きを置いた実践が多かったため、次年度以降、主運動につながる動きを向上させる取組が必要である。